

2024年度よりスタートした広島市立大学とCREATEORE with PLUS HIROSHIMA(クリアーレ ウイズプラス 広島)の協創活動の第2弾として、今年度は広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程で日本画、彫刻、金属造形を研究する学生および、視覚造形分野の卒業生の7名によるグループ展を開催いたします。

会場となるCREATEORE with PLUSはプラス株式会社が運営するオフィスデザインショールームです。空間デザインから働き方の提案などお客様の思いを実現するオフィス環境の提案とともにオフィスにアートを取り入れる活動にも取り組んでいます。CREATEORE with PLUSが手掛けるショールーム空間の中で、アートのある日常を想像していただき、それぞれの作者の感性やこだわりを楽しんでいただければ幸いです。



大和田 利羽

2023年、広島市立大学芸術学部日本画専攻卒業。現在同大学院博士前期課程に在籍。自身の記憶から取り出した風景と実景を組み合わせた絵画の制作を目指している。広島での個展やグループ展を中心に活動。第51回創画展、第51回東京春季創画展入選。



河元 愛香

2024年、広島市立大学芸術学部日本画専攻卒業。現在、同大学院博士前期課程に在籍。微小な生物や植物の断片といった有機的なモチーフに着目し、日本画の画材を用いた絵画を制作している。現在はグループ展を中心に作品を発表。主な受賞歴は 広島市立大学卒業・修了作品展 優秀賞 作品買上(2024)、第9回石本正日本画大賞展 奨励賞(2024)



黒川 翔太

2025年、広島市立大学芸術学部日本画専攻卒業。現在同専攻院1年在籍。時間や物の移り変わり、常に動き続ける形のないもの、反射や速度といった要素を主題に取り上げる。グループ展を中心に活動。2025年8月にはLGBTパレード“PRIDE”における壁画を制作。2026年6月にGallery Gにて個展開催予定(広島市中区)



白藤 匠吾

2025年、広島市立大学芸術学部日本画専攻卒業、広島市立大学大学院一年在籍。従来からある日本画のプロセスに則って制作を行う。対象から得る有機的な実感、エネルギー、または対象との距離からもうイメージを線や形にしている。そうしたある種、記号化されたものを扱いながら層を作り、抽象表現、空間表現を行う。主な受賞は 瀧富士美術賞優秀賞(2024年)。gallery美の舎・東京都台東区にて個展開催予定(2025年11月4日-9日)



安達 響

2025年、広島市立大学芸術学部彫刻専攻卒業。現在、同大学院博士前期課程に在籍。主に大理石を用いた石彫作品を制作。太古の海洋生物の遺骸等が降り積もることで生成される大理石を彫刻する行為を、生死と向き合うための儀式として捉え、安息への祈りを作品にしている。主な受賞歴は広島市立大学卒業・修了作品展 優秀賞 作品買上賞(2025)



田邊 緑

2024年、広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業。広島市立大学芸術学研究科在籍、現在修士2年。銅鍍金によって、主にオブジェを制作している。外見的特徴を目的とした動物の繁殖行為に対する批判を、身体的特徴を混ぜ合わせた動物モチーフの立体作品により表現する。



黒川 真衣

2025年、広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業。現在同大学に協力研究員として在籍。デジタルツールを用いてポスターやパッケージ等のグラフィックデザインやイラストの制作をしている。主な受賞歴は広島平和ポスター学生コンペティション2023入選。

